



高級獣毛コート地が80%占める

早川隆雄・早善織物（株）社長



会社概要

- 業務内容 婦人服地製造卸
- 創 業 1946年(昭和21年)
- 設 立 1963年(昭和38年)
- 最新年商 約17億円
- 本 社 愛知県一宮市奥町字風田44
- 従 業 員 33名

1946年、現社長の父・早川善一氏が創業したのが始まりで、今年で57年になる。創業当時の商品は服地ではなく、マフラー、ストール、ショールなど織物二次製品だった。当時では一歩も二歩も先を行く画期的な商材であった。

進取の気概は現社長にも引き継がれており、早川さんのモットーは「挑戦せよ、さらば開かれる」である。早川さんは昨年9月、国際服地展であるプルミエール・ヴィジョンへ、当産地からの初出展（他に数社）を果たした。また自立型製品事業としての「アッシュ・ドウ」プロジェクトも立ち上げている。

同社の特徴は何といっても「高級コート地へのこだわり」である。こだわりの歴史といっても過言ではない。その歴史を紹介する。1960年、カシミヤ100%の服地を当産地で初めて開発、その商品を「桐の箱」に入れて着分販売した。43年前のことである。

この開発と販売の成功で、同社の主力商品はマフラーから、服地に移行した。65年創業者の善一氏が亡くなり、母・孝子さんが社長に就任したが、同社の新商品開発は悲しみを乗り越えて続けられた。

70年には婦人コート素材が扱い商品の主力となったが、特に新開発のリバーシブルが大ヒット、売り上げの過半を占めるようになった。リバーシブルは織り技法で特許を得たものである（後に特許は一般開放）。80年代初頭には「カシミヤの早善」という知名度は、広くわが国ファッション業界に広まった。85年にも画期的コート地を開発している。抜け毛の多かったアンゴラコート地の改良に成功、その後もポッサム、パシミーナなど相次いで開発、企業化している。

早川さんは昨年から商品開発とともに国際化に取り組んでいる。昨年9月にプルミエール・ヴィジョンに初参加したが、それと並行し現在中国のSPA型高級専門店でターゲットを絞り込んで、ヤード1600円以上のコート地を輸出している。コート地以外は他産地から調達、年間通じて輸出できる体制も組んだ。

今後の企業展開に関して早川さんは「挑戦以外ない」とあくまでも前向きである。

